

謹賀新年

森山中腹からの五城目城

発行／五城目町

編集／文書広報課 ☎ 0188 (52) 2100代

印刷／湖東印刷所

年頭にあたって

五城目町長 加賀谷力司

希望にあふる昭和六十一年元旦、皆様あけましておめでとございます。

過ぎし年の皆様の大きなご健闘、ご活躍に敬意を表し、新しい年の幸多きことを心から祈念するものであります。

お陰をもちまして、皆様の絶大なるご協力のもと、総合発展計画に沿った豊かな町づくりも順調に推移し、殊に、昨年は、町村合併三十周年という大きな節目の年でございましたが、国道二八五号線五城目バイパスの開通、及び共同福祉施設リバーサイド磯ノ目の開館等、産業経済振興は勿論のこと、活気ある町づくりに果たす役割の大きな事業の完成をみる事ができました。皆様のご理解、ご協力に心から感謝申し上げる次第であります。

一方、五年に一度実施される国勢調査の結果、本町の人口は、五十五年に比し、九百六人減少の一万五千四十七人となっております。人口減少は、県内大半の市町村に共通する悩みでございますが、引き続き、次なる企業誘致の実現、及び地場産業の振興、住みやすく潤いのある環境づくり、或いは福祉施策の充実等、より一層産業基盤の確立と定住環境の計画的整備を推し進め、若い世代の町内定着と若者のUターン促進に努めてまいりたいと思っております。

また、今年から二カ年継続事業で、懸案でありましたし尿処理施設の建設に着手いたします。

今、私たちをとりまく情勢は、高度情報化社会、或いは高齢化社会等、かつて先人の経験したものとは異なつた試練に直面しておりますが、本質を見極め、進取の活力をもち、これらをのりこえ愛する郷土の進展に尽力することこそ責務かと存じます。

三十周年という一つの大きな峠を越えた今、来るべき次の世代に今日までの歩みをいかに生かしていくか、日々新たな気持ちのもと、輝かしい二十一世紀という峠へ向け、昨年より一歩、今日よりなお一歩前進すべく、町民の皆様とご一緒に歩を進めてまいりたいと存じます。

皆様の町政に対するより一層のご参加とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様の一層のご健勝を祈念し、年頭のごあいさついたします。

職人の町「五城目」を ささえる若い力

出席者（敬称略・順不同）



五城目町長
加賀谷 力司



佐藤 繁
菓子製造業
三十六歳・古川町



小林 勉
建築設計士
三十歳・上山内



栗山 幹
畳製造業
二十八歳・古川町



斉藤 幸作
看板業
二十七歳・雀館



目黒世士多花
木工芸品製造業
二十五歳・黒土



五城目町助役
伊藤 卓治
(司会)

司会……あけましておめでとうございます。

座談会のテーマは「職人の町を支える若い力」ということで、町内で自分自身の技術で生計をたてている人、いわば職人さんの仕事についている若い方にお集まりいただきました。

ご承知のとおり、本町は昔から「職人の町」といわれてきましたが、鍛冶屋さんとか桶屋さんなどは、後継者がおられないのが現状です。そのような中であって、皆さんは数少ない職人さんであり、「職人の町・五城目」を支える若い力であります。

仕事、職業についての考えや、町に対する要望など、率直なご発言をいただければ幸いです。

初めに町長からごあいさつをお願いいたします。

若い皆さんと語る よい機会……町長

町長……あけましておめでとうございます。

皆さんのような若い方々と新春早々お話しできる機会ができ、大変うれしく思っております。

町づくりについて私は、お年寄りの皆さんからは「この町に住んでよかったなあ」と言われるように、また、後を引き継いでくれる若い方々からは「よくやってくれたなあ」と感謝されるように頑張つて

おるつもりです。そういう意味で、これからの町を担う皆さんとお話しできることは、幸せなことだと感じています。

また、若者の特権は現状打破であり、町政をいろいろな意味で批判することは、町を進展させるエネルギーでもあると信じています。

町内の若い方々の代表である皆さんからお話を伺い、これからの町政推進の参考にしたいと思しますので、忘たんのないご意見、ご提案をいただければ大変ありがたいと思います。

司会……皆さんの仕事の内容について、自己紹介を兼ねてお願いいたします。

動物の形をした工芸品づくり……目黒

目黒……目黒世士多花（よし）と申しまして、名前がちよつと変わっていると思う人もいるかもしれませんが、家は木工業で、私は主に動物の形をした工芸品を作っています。

一昨年の九月ころからデザインを始め、今は順調に制作が進んでいます。

斉藤……斉藤幸作といいます。仕事の内容は看板を書くことで、どこにもあるような看板の仕事をやっています。

栗山……栗山幹（みき）です。幹という女の名前みたいですが、祖父が木の幹のように育つてほしいと付けたそうです。どうもそのようにはいか

ないですが……。昨年の十一月に結婚しました。

自分の仕事は畳屋です。これからは、四角い畳だけでなく工芸品のような畳作りもやってみたいと思っています。

小林……小林勉といいます。二十五歳のとき町に帰ってきたとして、現在、事務所といえるほどのものではないですが、自宅で建築の設計事務所を開いています。

仕事の内容はほとんど住宅の設計ですが、たまには大きい建物の設計もやってみたいと思っています。

おみやげ用菓子に 力を注ぐ……佐藤

佐藤……私は下町で菓子業を営んでいる佐藤繁です。仕事の内容は和菓子、洋菓子が主体で、五城目町にちなんだ郷土の名前の入ったおみやげ用菓子に力を注いでいます。たとえば「根花餅」とかモナカ「五城目城」、「馬場目川」などです。

一般に若い人は洋菓子、年配の方は和菓子を好むようですが、時代にあった製品づくりに心がけ、「ふるさと」の味をだしたいと思っています。

長兄の死によつて 後継ぎに……佐藤

司会……皆さんが現在の仕事を選んだ動機、あるいは経緯についてお聞かせください。

特集：新春座談会



佐藤……私は長栄堂の四男坊です。突然、長兄が死亡したとき、二番目と三番目の兄はすでに職についていました。私はまだ小学生でした。高校卒業後、なんの抵抗もなく東京の専門学校に入学し、その後五年間の修業を終えて家業を継ぎました。

自宅に設計事務所を開設……小林

小林……私の家は農家です。で、建築の方とは無縁だったのですが、能代工業高校の建築科を卒業したもので東京の建設会社に就職しました。就職した当初は東京に永住するつもりでしたが、兄たちが家を出てしまったのですからしょうがなく帰ってきました。その後、能代市内の設計事務所に五年ほど勤めましたが、その所長の勧めもありまして、自宅に設計事務所を開いたわけです。

祖父の言葉で家業を継ぐ……栗山

栗山……祖父は私のことをいつも「こいつは畳屋になるんだ」と言っていました。父は、職人は休みがないので普通の職業についての方がよいと言ってくれたのですが、死んだ祖父の言葉が頭にありまして、家業を継いだ方がよいと判断しました。

自分の技術を生かして……斉藤

斉藤……私は能代工業高校のインテリア科を卒業して、愛知県の家具メーカーに就職しましたが、研修の三日目がいやになって、半分、でまかせで看板屋になりたいからやめると言っていました。弟子になるのはいやでしたので、トラックの看板を扱う会社勤めしている知人から教わろうと、その会社に入りました。

しかし、彼はまもなく現場から離れてしまい、教えてもらえなくなりました。しょうがないから、レタリングの本とかを師匠に勉強しました。そうしているうちに、母が死に、姉が嫁いで家には父一人になりましたので、やむをえず五城目に帰ってきました。帰ってきて一、二年の間はいろいろやりましたが、結局、自分の技術が生かして飯の種になるのは、看板しかないというので、現在看板の仕事をしています。

化学を学び木工の仕事に……目黒

目黒……ありふれたことです。が、卒業したらサラリーマンになりたいと思っていました。しかし、大学四年の時に家庭の事情がありまして、どうしても家業を継がなければならなくなりました。

大学では化学を学んでいたのですが、木工の技術、知識は何もありませんでした。しかし、父のやっていることは違った仕事をしようと、六カ月くらいいろいろ下調べして、現在木工芸品の製作に取り組んでいます。

私も皆さんの場合と大同小異……町長

町長……私も、皆さんの場合と大同小異です。大学卒業後、住友金属工業へ入社することに内定していましたが、九月に父親の工場が焼失しました。家族一同が集まった席で「力司、お前が家に帰ってくるのであれば工場を建てろし、帰らないのであれば廃業する」と言われ、家業を継ぐことにしました。

私は小さい時から、長男は家を継ぐものだとして教育されてきましたので、住友金属工業に入社しても、いずれは五城目に帰ってこなければならないと考えていました。

将来の方向づけは胎内で……町長

町長……皆さんは、兄や母親の死などのために五城目に帰ってきたとおっしゃいましたが、それだけで帰ってきたのではないと、私は思います。母親の胎内

目黒……以前は、デパートなどで物産展を開けば物が売れましたが、最近はずっともな方法では売れなくなってきたいます。それでも、東京とか大阪など全国的に需要が伸びてきているので、なんとかやっているような状態です。

技術を身につけ家 具の製作を…目黒

目黒……以前は、デパートなどで物産展を開けば物が売れましたが、最近はずっともな方法では売れなくなってきたいます。それでも、東京とか大阪など全国的に需要が伸びてきているので、なんとかやっているような状態です。

にいる時すでに、母親の意思によってその方向づけがなされていたのではないのでしょうか。それが何かのキツカケによって結実することだと思えます。



職人というのは心を形に現わすのが仕事だと思っている ～ 加賀谷町長

齊藤……現在、需要といいますが、役場関係の看板、建設業者の工事用公示板、商店などの古い看板の書き替えが主なもので、一人で仕事をしている状況です。

師匠につかず独学 で技術習得…齊藤

学校を卒業してからまだ一年六カ月ほどなので、技術の面では糸ノコしか扱えない状態です。いずれは、家具などを作りたいという夢があるのですが、いろいろな技術を身につけたいと思っています。今はそういう時間的余裕がないので、毎日糸ノコをひいているといったところです。

栗山……今の仕事の状況はあまりよくありません。新しい畳は、新築の場合でないとほとんどでません。現在では、畳の裏返しや表替えの仕事が多くなっています。

一級畳技能士の資格 を取得…栗山

よしとするか、なかなか見出せないでいます。それでも、いい仕事というか、自分でもよい出来栄だと思える仕事をした時はうれい入ったときもうれしいですが、毎日の支払いは苦しいです。



時代にあった製品づくりに心がけ“ふるさと”の味をだしたい ～ 佐藤繁さん

**新製品を考えることが
楽しみ…佐藤**

小林……一昨年あたりから仕事が安定してきました。仕事の相手はほとんどが秋田市で、半分以上は町外となっています。町内の方々は、家を建てる場合、大工さんに設計をまかせるといのが一般的なようです。設計屋という存在を認めていただけないことが現在の悩みです。

仕事の半分以上は 町外から…小林

まくいったと思うことが喜びで、逆にそこまで達しないことが苦しみといえます。

司会……職人さんの後継者不足は、職人さんたちばかりでなく、町としても大変に頭の

佐藤……今はお菓子を新しいうちに売れるようになりまして、循環がよいということはい、生菓子のようなものを、おいしく食べていただけたらいいことです。

業界誌とか各メーカーの講習会に参加し、技術を習得するよう心がけています。その技術を生かして、自分なりに考えて新製品を出すわけですが、お客さんに喜んでいただけて、売れゆきがよい時は、大変うれしいです。また、春はこういうものを出し、秋になつたらこういうものを作ってみようと、夢みたいな事を考えている時がすごく楽しいです。



祖父は私のことをいつも「こいつは畳屋になるんだ」と…… ～ 栗山幹さん

栗山……畳屋の場合、半分くらいは家業を継いでいるようです。しかし、ワラとかゴミの出やすいものを扱うので、若い人たちからはカッコよくない職業と見られがちです。また、畳そのものが下に敷くもので、どうしても

小林……建築設計に関しては、後継者不足というより、建築設計士になる人が多くて、余っているような状態です。ですから、建築設計士の後継者問題について、深く考えたことはありません。

佐藤……昔から菓子屋というのは、朝早く起きて夜遅くまで働かなければならぬし、一日中立ち通しの仕事です。また、日曜日、祝祭日も休めないということもあって、菓子職人の場合も後継者という問題はむずかしい問題です。

敬遠されるようです。それでも、畳屋を継がせるんだという親父さん、おふくろさんの意思が子供に通じればよいのですが……。

需要があれば後継者は…… 斉藤

斉藤……町内にもかつては看板屋があったそうですが、長続きしなかったというのが事実のようです。自分はこの仕事を続けていきたいと思っていますが、後継者は自分の息子というふうには考えていません。

結局、需要があれば必ずだけれがその仕事をやっていくものと考えます。鍛冶屋などの後継者がいないと言われませんが、家庭でカマとかいった刃物類を必要としなくなり、需要がないから後継者がでないのだと思っています。また、私たちが小さい時は、平気でノコなどの刃物に触れ

ることができ、大工さんや建具屋さんは身近な存在でした。が、今は違います。ですから大工や建具屋になろうとする場合、決死の覚悟で飛び込んでいかなければなりません。

情報を提供する施設が必要…… 目黒

目黒……私の家は、最初建具屋でした。以前は家がたくさん建てられたので建具の仕事も多かったのですが、だんだん新築は少なくなり、仕事も減ってきました。私は、父の仕事を見ていて、子供ながら建具の仕事だけで食べていけないと感じていました。

建具屋は建具だけ作らなければならぬわけでないし、全国的にみても、工芸作家などとして新しいものを作っている人もおられます。まず、全国では何を求めているか、どういうものを作れば売れるかといった情報が必要だと思

ます。そういう情報があれば、新しいものを作れるし、後継者もでてくるのではないかと考えます。

この情報をだれが提供するかは大事な問題です。上小阿仁村では、木材技術センターというものを建築したそうですが、何を作ればよいのか、どういうものを作れば売れるのかといった情報が得られないので、利用する人はほとんどいないということでした。

県には工業技術センターという機関がありますが、町にも、この町の特徴をとらえたこのような施設が必要ではないでしょうか。あそこに行けばいろいろな情報が得られ、高度な機械も設置されているとなれば、地場産業の振興だけでなく、後継者の育成にも役立つと思うのですが……。

職人の自覚、町民の理解必要…… 町長

町長……昔は、士農工商という身分制度があり、それが天から与えられた任務、天職であると信じ切っておった。このことが、良いか悪いかは別として、自分の信念、人生観、哲学として持っておった。自分の技術を通して、現世に奉仕しなければならぬ——従って職人は、職人としての自尊心、世人はまたそんな職人を尊敬していたと思います。

その当時の職人は、今で言えば、先端技術を駆使するエンジニアのような存在であったと思います。

私は、職人というのは心を形に現わすのが仕事だと思っています。ですから、職人さんたちは大変な勉強をして技術を身につけることは言わずもがなで、立派な心、美意識

の涵養、摂理、真理の探求まで進み、悩み、苦しみ、努力したものだと思っています。

皆さんは今、悩む課程にあると思います。あのロダンもいつているように、基本を学ばないのです。その悩みというものは、自分の独創的なものを付け加えることで、職人さんたちは皆このために努力してきたのです。

この点が、一般のサラリーマンと違うところだと思います。サラリーマン指向が強くて職人指向が大変薄いように見られますが、実は大変な間違いをしていると思います。「職人」という呼び方も、別の言葉に替える必要があるかもしれません……いや、むしろ職人という言葉に、もっと権威をもたせるべきだと思います。

彫刻家の深谷さんと陶芸家の佐藤さんという方が、町内で創作活動を行っています。

その方たちが「この町の職人は哲学を持っていない」、「町の文化水準が低すぎる」と私に吐露されました。私は、文化の町、教育の町と自負して

いましたので、文化水準が低い理由をたずねました。彼らが言うには、「五城目では仕事が順調であれば大変尊敬されるけれど、ちょっと失敗すればまったく相手にしてもらえない——これでは職人は育ちません」とのことでした。

日本は目ざましい経済成長を遂げました。今後は、職人的な仕事が認められる時代になると思います。ですから、職人さん自身がしっかりした哲学を持つことが大切です。また、町民はそれを支えてやる、理解してやる必要があると感じています。

また、後継者の問題は、両親が自分の仕事について、しっかりとした考えを持っていないければ、解決できないと思います。



私の家は農家ですので建築の方とは無縁だったのですが…… ～ 小林勉さん



五城目町そのもののイメージを看板に表わせば…… ～ 斉藤幸作さん



子供ながら建具の仕事だけで食べていけないと感じていた ～ 目黒世士多花さん



皆さんは数少ない職人さんであり職人の町・五城目を支える若い力～伊藤助役

親自身が、自分の仕事はダメだと思っているものだから子供がついてこないのです。教育もサラリーマンになるための勉強にかたよっているから、自分の責任で仕事を進めていこうという経営者、職人がなかなか育たないのだと思っています。

技術の活用が今後の課題……町長

また、看板屋は一生看板を書き続けるというのではなと思います。看板を書くには、色彩、文字の形態、バランスなどたくさんの美的感覚が必要であり、その感覚を時代と共にいろいろなものに活用していかなければならないと考えます。今は、包丁を作っていた感覚で橋のらんかんを作り、ガッコ桶が花器に生まれ変わる時代であり、それが時代の変遷でないかと思えます。体験、会得した技術を何に

変化させていくか。若い皆さんが、これから考えていかなければならない大事な問題だと思います。

司会……皆さんの中には、まだ子供さんのいない方もいらっしゃると思いますが、子供に現在の自分の仕事を継いでもらいたいと考えていますか。

目黒……実際、自分には子供がおられないので、現実的ではありませんが、私は、子供には子供の好きなことをやらせたらよいと思っています。

私は親の意見で家業を継いだ訳ですが、この点で、私の親は考え方が少し古いのではないかと感じています。

斉藤……私もまだ一人です。で、今までそのようなことを考えたことはありません。しかし、子供が自分の一生懸命働いている姿を見て、後を継ぐことを決心してくれることが一番よいことだと思います。これも、結婚して男の子が生まれたらの話です……。

女の子が生まれたらできないことですので、男の子が生まれるよう頑張りたいです。

子供に家業を継がせたい……栗山

栗山……継がせたいと思います。無理に継がせるのではなく、人生には畳屋として生きる道もあるということを教えながら育てたら、継いでもらえるのではないかと思います。はじめから、家の仕事を抜きにして子供を育てることはしたくないと考えています。もしできたらの話しですけども……。

小林……私の場合は子供がおりますが、まだ小さいので、その問題について考えたことはありません。やっぱり本人の意思にまかせたいと思います。ただ、どこかに勤めるにしても何か挑戦する、何か一生懸命打ち込むといった人間になって欲しいと願っています。

佐藤……継がせたいのはやまやまでですけども、私の場合は今、女の子二人です。……お嬢さんを募集して継がせたいと考えているのですが……。

助役……町に対する要望、あるいは提案などありましたらお願いします。

佐藤……町民センターなど公的な施設、町の行事などには今まで以上に私たち菓子業界の製品を利用していただくことをお願いします。

イベントで町をアピール……小林

小林……五城目町とはこんな町であるということを、町外にアピールする大きなイベントを企画してみてもどうでしょうか。

例えば昨年、田沢湖町では「田沢湖まるごと手をつなごう」が行われましたし、羽後町では「羽後牛まつり」が開かれていました。本町は職人の町と言われているので、職人さんたちと結びつけたイベントも考えられると思います。

自分を生かせる仕事がない……斉藤

斉藤……町の人たちは、看板は店の名前がわかればよいと思っているようです。看板の値段は大きさと字数で決まると考えており、こちらとしても予算内の仕事しかできません。思いっきり自分の感性を生かした仕事ができないものかと思っています。

また、五城目町そのもののイメージを看板で表わせたらと考えています。看板の専門誌などには、外国の看板が載っていますが、何十メートルもあるものや、観光名所になっているものがあり、うらやましいと思います。

このようなことは、町に対して要望することではないので、結局は自分自身の問題と

思います。自分の仕事については、直接町にお願いすることはありません。

栗山……町の人口の流出をなんとか止めていただきたいと思っています。職人の町といっても、職人だけでは発展しません。作った製品を使ってくれる人がいるからこそ職人も生活できるのです。

目黒……先ほども述べましたように、技術指導や市場の情報提供してくれる技術センターのような施設、機関が町にあれば大変ありがたいと思います。そこに駆けばいろいろな情報が得られるし、また、機械を使って試作もできるとなれば、中央との競争力も増すし、製品の開発もできることになると思います。

司会……皆さんの将来の目標、あるいは仕事に対する抱負をお聞かせください。

現在の仕事を一生続けたい……栗山

栗山……目標は、今の仕事を死ぬまで続けていきたいということです。そのためには、畳屋としての家業がつぶれないように努力しなければならぬと思います。

また、一級畳技能士の免許をとりましたので、その技術を生かした仕事を多くしていきたいものだと考えています。斉藤……五城目で看板の仕事は始めて一年たったばかりですが、町内に看板屋があるこ

とを知らない人もかなりいるようです。「五城目看板」の存在をアピールして、町外に流れている仕事をこっちの方に持ってきたいと考えています。これが私の抱負です。

作品として誇れる設計を……小林

小林……私は、まだ自分が目指すところの建物を設計したことはありません。私の住んでいる五城目は木の町です。で、木材を活用して特徴ある建物、自分の作品として誇れるものを設計したいと思っています。

目黒……私は、技術面では素人と同じですので、もう少し技術面で勉強して家具を作りたいと思っています。

また、自分の作る製品を全国的水準まで高め、自分の住んでいる五城目の名前を全国に広めたいと思っています。

町の産物をいかしたい……佐藤

佐藤……五城目の恵まれた自然から生まれた産物をいかした菓子づくりを、目指していきたいと思っています。たとえ名産でなくとも、この土地でとれたものを使い、心をこめた菓子づくりをしたいという事です。これは可能であり、また絶対に必要なことだと考えています。

特集：新春座談会



座談会を終えて記念撮影

司会……最後に、町長からこの座談会のまとめということ、お話を願います。

自らチャンスを作る努力を……町長

町長……私は、町内の皆さんの潜在的な能力というのは、他にひけをとらないと思っています。ただ、それを引き出す私たちの力が不足しているか、または町内の皆さん、職人さんも含めて、自分の能力についての自覚が足りないのではないかと思っています。樋口の金子喜三郎さんは、桶樽づくりで全国的に有名になりましたが、町内の皆さんも機会さえあれば金子さんのようになれる力があると思っています。ですから、本人の自覚と自らチャンスを作っていく努力が必要であると常日ごろ考えています。

世界を相手にする気概で……町長

また、活動の場を一万六千人の町民だけを対象としない、もう少し広げてほしいのです。役場から県庁まで三十五分で行けるようになりました。世界は昔と比べものにならないくらい狭くなっています。町に腰をすえながら日本を相手に、できれば世界を相手するくらいの気概を持つてもまちがいないと思います。皆さんのお話を聞いて、

町外に目を向けておられることがわかり大変強く感じました。

五城目の人は、遠慮深いところがあります。昔であれば「この菓子はあまりおいしくないですが、食べてみてください」といいうのが普通でしたが、今では「これは今までにないうまい菓子です。虫歯にもなりませんし、丈夫になります」といわなければ食べられません。この包丁、切れますかと聞かれて「切れません。ただし、今は切れませんが、上手に包丁とつき合ひ続けてください。十年後には世界一切れる包丁になります」と言って、ドイツのゾルンゲンが刃物の王者になりました。もう少し「はつたり気」があってもよいのではないかと思います。

そして、自分に対して自信を持つてください。自信のある自分が作った作品は、自信をもって世に出すことができます。自分には自信がなければ何もできません。今は切れない、しかし使い続けてその良さが出てくる——そんな作品を早く作ってもらいたいものです。

皆さんは修練の年代です。時代と共に需要は変わりますが、物を作る技術、感覚、感性といったものは共通しているところがあります。設計にしても菓子づくりにしても原則があるはず。最初それを身につけなければなりません。

ん。その次にはじめて、独創的なものを求めることになると思います。

これを機会に気軽に役場へ……町長

町としても、これからは金を使って行う事業よりも、頭を使って行う仕事が多くなると思います。皆さんはそれぞれの専門家ですので、町から指導を受けるのではなく、役場を通して調査したり照会したりするなど、役場職員と共に勉強するという気持ちになつていただきたいと思っています。今日、皆さんから伺ったお話は、町内の若者たちの意見であると受けとめ、できるだけお気持ちにそえるよう努力したいと思っています。また、これを機会に役場へ気軽にお願いしてください。大変つたない司会にもかわらず、活発にご発言いただきました。ありがとうございます。皆さんにとりまして、また町にとりまして、もうすばらしい年でありまして、ご祈念申しあげて、座談会を終わりにしたいと思います。

謹賀新年



あけましておめでとうございます

私たちは寅年生まれ

トラ

寅年に向って

松田 淳(希望ヶ丘)

鳥緩く描きいる輪の中に入る故郷にわれは留るべきや
この町に住みついて四十数年。風に乘って時折り聞こえる汽笛が淡い郷愁を感じさせる。故郷を捨てる手段として列車に乘る必要があったからである。

現在あるのは過去があったからであり、やはり過去に触れないわけにいかないだろう。昭和十三年千葉県で産声を上げ、三歳の時に母の郷里である富津内に越してきた。小学校一年の時終戦。戦争の恐怖感に直接受けなかったが、物資の不足はひどかった。当時の写真を見ると、着ているものは一様でなく、それも全て

兄弟からあるいは他から譲り受けたものばかりであった。妹や弟を連れてきて子守りする人もあったし、何人かは学校に来ることなく義務教育をおえていった。高校進学も四分の一程であったのである。このように戦争は多くの人々の運命を変えたであろうと思うと、二度とあつてはならない。就職難ではあつたが、幸い町内に職場を得、実に多くの人々の善意に支えられて生きてきた。野球を通じては、町内では勿論のこと郡内でも多くの知人を得、いろいろとご教導くださることに感謝している。

私は今まで二つの大きな夢



五城目郵便局に勤める松田さん

を持った。一つは自分の家を持つことであつた。これは十五年程前に雨風を凌げる程度のものであるが建てて実現した。もう一つは、高校時代から短歌に興味を持ち、一冊の歌集を出版することである。最近是不勉強であるが、当たり年を契機に可能性に向けて励んでみたいと思う。

で寅年に向って生きていきたいと思つている。
“鯛の鳴きいる森を駈けて来しわが過去華やかであらずともよし”
いろいろの分野で、それ相当の地位を得て大活躍をしている同年代の方も多く、この紙上に登場することに非常に抵抗を感じたが、新年ということで拙文も併せてご容赦願ければ幸甚である。

中学生になったら...

畠山 千穂(富津内小学校六年)

今年とはら年です。私の年でもあるし、富津内小学校を卒業して中学校生活のスタートをむかえる年でもあります。そこで、中学生になったらがんばろうと思つている目標を三つお話しします。

まず一つは、決めたことを毎日実行することです。小学生のうちはお手伝いを毎日やろうと決めても三日もたてば忘れてしまい、三十分読書を毎日続けよう決めても一週間ともちません。それは、まるで、いつも屋根までいかに消えてしまふシャボン玉のようでした。今年こそはねばり強くやりたいものです。二つめは、とら年にちなんで、とらのように力強く中学校生活を送ることです。「千穂ちゃんはおとなしくてか

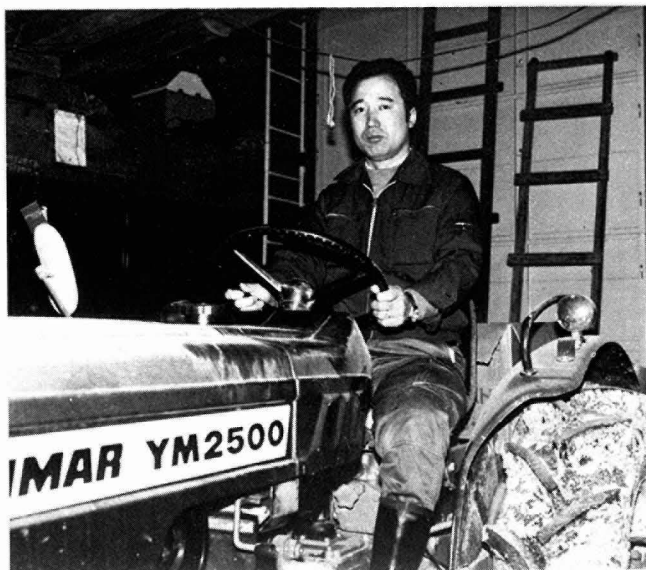


畠山さん、中学生となる今年の目標は3つ

わいらしい子だね」と親せきの人によく言われます。どうやらとらとはあまりにいていないようです。でも、気持ちの

うえではとらをみない、どんなことにも負けず、くじけずがんばりたいなあと思つています。
小さいころの私は、すぐカゼをひいたり、カゼをこじらせてしまつたりする病気がちな子供でした。こんなところもとらとはにいていないようです。でも、プールへ通うようになってからは、お父さんやお母さんがびっくりするくらい病氣もしくなりました。だから、スポーツに親しんで体をきたえ、健康に十分気をつけることも目標にしたいと考えています。
小学校六年間の勉強のこと、スポーツのことを大いに反省し、それを直していくのが今年です。有意義な年にしたいと思ひます。

嶋崎 茂悦(下樋口)



力強い自立経営農家を目指す嶋崎さん

農業に携わつてもう十八年目を迎える。その間、農業や農村をとりまく情勢は目まぐるしく変化してきた。米の生産過剰で始まった減反政策、

募集内容は次のとおりです。申込書は役場建設課にあります。

▽申し込み先 役場建設課

☎
52
|
2
1
0
0

しかし、日本農業の最も弱い点は、生産コストが高いことである。このことから、外国農産物の輸出攻勢にはいつも受け身で、国の保護のもとに身を守ってきたところである。

この解決には、生産性の高いレベルアップと高収益農業の実現につきると思う。そのためには、早急に官民一体となつてバイオテク等を踏まえた技術革新が必要であらう。

二十一世紀に向けて、こちらから打って出るという、いわば攻めの国際競争力を備えた農業の実現が今後の課題になると思う。

それらを克服するには、何
 といっても日頃の研鑽の積み
 重ねによる、自助努力が必要
 になってくる。

また、一方では消費者ニーズに応える意味からも、安全で良質でしかも安定供給の役割も果たさなければならぬ。私は、国民の命の糧をつくり、自然を守っているのだという気概と誇りをもち、そして地域あるいは集落の中核と

高沢 奈緒（新畑町）

これは、人生における、人の徳にも似ているように思われる。

年男に当たった今年を契機にさらにまた、精進を重ねて確かな農業への挑戦を開始したいと思っている。

恥かしく思うのである。

私の場合、学生時代から探し求めてきた「一番自分らしい生き方」が、今なお深い霧の向こうにあって、今だ就職もしないままである。しかし今年は当たり年。新年を迎えて志をたてることなどめったにないのだが、今年ばかりはこれを厳粛に受け止め、決意



高沢さんとフルートのつきあいは中学生の時から

も新たに前進してゆきたいと思っている。

今までの自分をふり返ると、目標に向けて努力することより、適当に頑張つて、ある程度の満足を得る方を選んできたと言える。目標に真正面から取り組んで、悩んだり試行錯誤をくり返したりするその過程の中で、自分が磨かれるのだということを理解しているつもりだし、口で言うのも容易い。だが、いざ自分のこととなると、目的を達成できない場合の挫折を考へて、つい一歩退いてしまふのである。今年はこうした反省を念頭に置き、妥協のない目的をもちそれに向かつて粘り強く努力を続けてゆくような、そんな一年にしたいと思っている。

先日、十数年ぶりに井上靖の「しろばんば」を読んだ。これは、私が初めて文学のおもしろさを感じ取った懐かしいものである。主人公と一体感を味わい、主人公の中に自分の姿をみたあの頃を思い出して、素直に感動する心を再び取り戻したような気がする。また、職に就かずにいる私に「今は充電期間だね」と言ってくれた友人がいた。こんな友に出会えたことに感謝し、私も人の心の痛みをわかってあげられる人間になりたいと思つた。

こんなふうにして、日頃忘れているエッセンスをひとつひとつ拾ひ集めて、心の中で輝かせていきたいと思う。



加藤さんの書道は4段の腕前

私たちは寅年生まれ

当たり年の思い出と抱負

加藤 敬子(石崎)

「光陰矢の如し」と言うように、こんどは歳月の流れの早さを感じた事はありません。今年は私達の寅の当たり年で、還暦を迎えることができました。

大正十五年四月十八日が私の誕生日です。四月といえは先ず長閑な春の陽光を思いだします。そうした清浄明潔な時候のもとに寅の子として生まれました。

大正十五年十二月二十五日天皇の死去と同時に践祚し、元号は「大正」から「昭和」へと改まり、国民も新しい昭和へと邁進しつつある年であつたのです。

私の母は、「お前の生まれた日は朝からとても良い天気です。夕焼けに包まれて生まれました。寅年の女の子だから心も体も健全で、やさしい思いやりのある子に育ってほしい」と言ってくれました。私の幼少は体も丈夫で正義感に燃え易く、弱いものいじめしている場には猛然とタツチして裁く方でした。まさに寅の子であつたのです。その度にやさしく、あるいはきびしく悟ってくれた母の事を思うと、済まなかつたと思う心でいっぱいです。昭和六年、私が六歳の年に満洲事変が起こり、兄妹達の口ずさんだ「戦友」の軍歌は、今も私の中に残っています。昭和十一年、十一歳の時に二・二六事件、そして昭和十二年十二月八日、生涯忘れることのできない日中事変が勃発しました。わずか十二歳になつたばかりの寅の少女達は「千里行つて千里もどる」という寅の信言を胸にして、戦いの庭に立つ兵士の武運を祈り、心をこめて歳の数だけ千人針を縫いつづけました。それに相次ぎ昭和十六年はあの長期にわたる大東亜戦争となつたのです。

昭和十九年三月の末、軍律きびしい不景気な中に僅かな衣料点数で買い求めた嫁入り衣装と道具で現在の大川石崎に嫁いだわけです。農家で生まれなかつた私は、鎌や鎌さへふるうことも知りませんでした。そんな私をよく導いてくださった舅には心から感謝の念がこみあげてきます。満洲事変以来十五年間の長期にわたる戦いを生きてきて、また戦後、高度社会の成長と共に歩みつづけた数々を思う時、自分なりに頑張ってきたつもりだし、けつして要素のない人生ではなかつたと自負しております。今はもう娘夫婦をたよりに健康な日々を送り、夫の健康に満ちた笑顔とたくましい男孫二人に囲まれ、幸福の頂点に居るつもりです。なお、私の当たり年にちなんだ抱負として、家が農業である限り畑野菜作り、庭木や生垣の手入れのかたわら、本町が計画実践して来た健康推進と、好きな俳句、書道に専念し頑張つてゆくつもりです。幸い私は馬場目に生まれ育ち、一生を通して古里の清く美しい母なる山川の自然を仰ぎながら生きてゆけることです。石川啄木の歌にある様に「古里の山にむかいて言うことなし古里の山はありがたきかな」。ほんとうに、私をこれまで感めはげましてくれた古里、また多くの先輩、いつも傍に居て温かく呼びかけ励ましてくれる友達の皆様へ、今日の還暦を迎える日にあたり心から感謝を申しあげさせて頂きます。

お知らせ



初日の出

幼稚園児を募集

受付は1月21日～31日

五城目幼稚園では、昭和六十一年度の園児を募集します。主な募集内容は次のとおりですが、詳しいことは五城目幼稚園(☎52-3421)、または町の教育委員会(☎52-2100)におたずねください。

▽応募資格

・昭和六十二年四月に小学校に入学する者(昭和五十五年四月二日から五十六年四月一日までに生まれた者)
・五城目町に住所(居)を有する者

▽募集人員 約百六十人

▽入園願書交付場所・提出先 五城目幼稚園、教育委員会

▽願書受付期間

昭和六十一年一月二十一日

～一月三十一日

住宅断熱施工の

技術講習会を開催

秋田県職業能力開発協会などでは、住宅断熱施工技術講習会を開きます。

▽日時

一月十六日・十七日
午前九時～

▽場所

県総合職業訓練センター

▽講習内容

- ①断熱構造の必要性、効果
- ②断熱材の種類と特性
- ③適正な設計、施工方法
- ④住宅金融公庫の融資制度と手続き

▽対象

大工、工務店など住宅建設業に従事している者

▽受講料 一万円

▽申し込み締め切り 一月十日

▽申し込み、問い合わせ先 秋田県職業能力開発協会

☎62-3510

NHK民謡コンクール

出場者を募集

NHKでは、「NHK東北民謡コンクール」への出場者を募集しています。

詳しい内容は、NHK秋田放送局(☎23-5411)にお問い合わせください。

▽お問い合わせください。

リバーサイド磯ノ目

2日から営業

リバーサイド磯ノ目では、昨年の十二月三十日から休館していましたが、一月二日から営業を始めます。新年会や会合などに利用できます。また、おみやげ用の町の特産品などを取りそろえ、ご利用をお待ちしています。

広域農道に接続する計画

してだけでなく、行内馬立地区を含む台地一帯の開発に大きく貢献するものと期待されています。

また、現在建設計画が進められている出羽丘陵北部地区広域営農団地農道「広域農道に接続される計画です。広域農道は、秋田市など一市六町を貫く基幹農道であり、広域農道に通じる主要路線として



果樹園の中を走る農道

の役割も果たすことになりました。さらに、果樹園の中を走る観光道路としての活用も考えられています。

優良従業員を表彰

五城目町商工会

第二十四回商工業優良従業員表彰式（主催・五城目町商工会）が、十一月二十六日、午後一時三十分からグリーンロイヤル丸富で行われました。優良従業員として表彰された方々は次のとおりです。

▽商業の部

越高孝子(五城目信用金庫)
工藤睦子(同)、鷺谷美代造
(秋田中央交通五城目營業所)
小林志郎(同)、島崎ミツイ
(北宇商店)、松橋芳子(荒
要商店)、小玉トシ子(ファ
ミリイデパート長源)、関根
妙子(同)、佐々木幸子(秋
田相互銀行五城目支店)

▽工業の部

館岡貞治（五城目木材）、松橋スエノ（菊地酒造店）、松橋久男（同）、小野チナ（加賀谷木材）、伊藤芳男（同）、大宮ツエ子（宮盛木材化工）、谷村エル（同）、鳥井ツネ子（同）、佐々木義宣（伊藤製材所）、伊藤フサ子（菊地製材所）、沢田石喜美男（五光土木）、桜庭シエ（宮田木材）、渡辺伸吉（渡辺彦兵衛商店）、伊藤美佐男（同）、沢田石玲子（イトマン）、伊藤サツ子（同）、沢田石祝子（同）、猿田豊和（尾形鉄工所）

本校での健康な歯づくりと今後の課題

五城目小学校養護教諭
土橋 美保子

最近の学童の三大疾患をあげるとしたら、むし歯、近視、骨折の順になります。中でも、むし歯のある子は九〇パーセント以上といわれ、本校の場合でも九八パーセントの子供がむし歯をもっています。その中で、現在完全に治療している子

つようになったことは、大きな収穫だったと思います。作文、標語、ポスターなどの応募、歯垢検査、歯みがきカレンダーや保健だよりなどでの啓発、PTAの時など、あらゆる機会を逃さず、歯科保健を取り上げて参りました。

そこで、私は、う歯予防対策の積極的な指導方法として「よくかんで食べる」と「をおすすめしたいと思います。

歯には、食べ物のかすを取り除く自浄作用があり、口の中の唾液は、絶えず流れることで歯の汚れを落としていくのです。よくかんで食べるにより、唾液の量が多くなり、効果が増して来ます。

食品の中でも、繊維の多い野菜や果物をよくかんで食べると歯の表面をこすり

供は約六〇パーセントです。従って、約四〇パーセントの子供がこれから治療を行わなければならないわけです。学校側としても、冬季休業を利用して未治療者の完全治療をめざして指導に

こうして、歯の衛生に対して、子供や家庭が関心を示すようになったのは、地域指定を受け、全町が足並みをそろえて、本事業を推進し、意識の高揚に努めたためと思います。

自浄作用が促進されます。
最近の子どもの食事は、
全体的に魚介、海藻、野菜
類が嫌われ、好きなものは
多汁性で軟らかい食品に偏
り、肉にしてもハンバーグな
どのひき肉料理や、野菜で

あたりたいと思います。このことは、本人並びに家族の問題ですので、自覚に基づいた主体的な姿勢が強く求められます。

しかし、十一月中旬、第二回目の歯の検査を実施しましたところ、四月に検査した時となら変わらないデータが出て来ました。む

傾向が強く、かまずにのどを通す食べ物も多く摂取しています。要するに、かむのが面倒くさいということ

本校での「健康な歯づくり運動」三年間を振り返ってみますと、施設、設備の面で不備ながらも実施していき、し歯が今や国民病といわれ一挙に解決できない大きな課題であることを改めて思い知らされました。

よくかむ習慣は、歯を支える組織や、顎の骨の発育に必要で、かむことの刺激になりそうです。

きた給食後の歯みがき指導は、今ではしっかり定着し、また、学級指導や児童会活動でも実践の強化に努める。

むし歯になる原因は、第一に細菌、第二に甘い食べ物、第三に歯の質にあり、この三つを正しく管理でき

は脳の發育をも活発にします。

ことにより、児童一人ひとりが自分の歯の健康について、少なからず関心をもつことができるようになりますが、なかなかうまくいきません。

にます。固い食へ物をかむことから始めてみたらいかげんでしょう。

町内の話題

古里の味で 腕前を披露

料理教室で食味会

町内の自主料理教室の会員たちが、十二月八日、町民センターで「食味会」を開き、町内の皆さんに料理の腕前を披露しました。

現在、町内には料理愛好者による料理教室が十グループあり、会員は約百五十人。そのうち九グループは、公民館の指導を受けながら自主的に活動を続けています。最も結成が早いグループは「味好会」で、今年が十周年。今回の催しは、料理教室結成十周年事業として行われたもの。

メニューは「キャノコ」をはじめ、「あえもの」につけ「アサツケ」「ニシンマキ」「オ

デン」「つけもの」「巻きずし」「おにぎり」の九品。今では懐かしい味となった料理が主体で、「古里の味」を見直し、覚えていただければというのが会員たちの気持ち。

五百円でこれら全部の味を楽しめるとあって、午前十一時から三時間ほどの間に二百五十人あまりが会場を訪れ、正午ごろには席があくのを待つ人がでるほどでした。

当日は、五城目町連合青年会の三十周年記念式典が、町民センターで開催されたことでもあって、若い人の姿も多く、「キャノコ」や「アサツケ」は初めての人も。また、会員につくり方やコツを聞く主婦もおり、それぞれの教室の出品コーナーには、人がぎができていました。



稲ワラの民具づくりで交流会

「ワラグツ」 作りに挑戦

高千婦人会で交流会

高千婦人会の皆さんが、二月一日、同地区の公民館で、高千老人クラブのお年寄りたちとの交流会を開き、稲ワラを使った民具の製作方法を学びました。

この交流会は、高千婦人会の皆さんが、今では見ることの少なくなった稲ワラの民具の作り方を覚えようと計画したもの。高千老人クラブのお年寄りたちが、自分たちの技術を次の世代に伝えるよい機会



会場は町内の皆さんでいっぱい

会であるとして、心よく先生役を引き受けてくれて実現しました。

ビニールシートが敷かれた会場で、お母さんたちは、これからの冬期間に役に立つワラグツとゾーリ作りに挑戦。お年寄り十人あまりがマンツーマンで熱心に手ほどきしましたが、お母さんたち全員がワラ細工は初めてで、昼食をはさんで一日がかりの技術指導となりました。

お母さんたちは「覚えるのに難儀した。疲れたけれども楽しかった」と完成したワラグツを手に感想を語っていました。



町内対抗総合体育大会

前期一位は浅見内

町内対抗総合体育大会は、今年度から二カ年にわたって競技を行い、その総合成績で順位を決めることになっています。今年度最後の競技種目である綱引き大会は、十二月九日から十七日まで広域体育館で行われ、今年度分前期の総合順位がまとまりました。

- | | | |
|---|--|--|
| <p>▽前期総合成績(数字は得点数)</p> <p>①浅見内 68 ②下山内 57</p> <p>③畑町 52 ④古川町 51</p> <p>⑤中川原 中村 48</p> <p>⑦岩野 42 ⑧八田 37</p> <p>⑨富田 西野 36</p> <p>⑪田町 35 ⑫落合 34</p> <p>⑬上山内 30 ⑭脇乙 29</p> <p>⑮館越 27 ⑯蓬内台 25</p> <p>⑰樋口 24 ⑱町村 23</p> <p>⑲帝釈寺 21 ⑳矢場崎 20</p> <p>㉑大川四区 上高崎 谷地中 18</p> <p>㉒広ヶ野 黒土 17</p> <p>㉔岡本二区 下高崎 16</p> <p>㉖希望ヶ丘 新町 湯ノ又 野田 15</p> <p>㉘上田町 紀久栄町 小倉 14</p> <p>㉚築地町 昭辰町 久保 北 々口 12</p> <p>㉜水沢 浦横町 11</p> <p>㉞新畑町 長町 館町 中高</p> | <p>▽前期種目別成績</p> <p>〔家庭バレーボール〕</p> <p>①浅見内 ②中村</p> <p>③館越 ④八田</p> <p>〔水泳〕</p> <p>①古川町 ②下山内</p> <p>③畑町 ④脇乙</p> <p>〔ゲートボール〕</p> <p>①浅見内 ②大川四区</p> <p>③中川原 ④矢場崎</p> <p>〔卓球〕</p> <p>①中川原 ②中村</p> <p>③古川町 ④落合</p> <p>〔綱引き〕</p> <p>①浅見内 ②畑町</p> <p>③下山内 ④富田</p> | <p>崎 高千 下樋口 9</p> <p>④7 大川三区 岡本一区 8</p> <p>④9 今町 東磯ノ目町 米沢町 台御蔵下 寺庭 6</p> <p>⑤4 新里町 一番町 小野台平 ノ下 恋地 杉沢 大川一区 曙町 3</p> |
|---|--|--|

町内対抗綱引き大会 浅見内チーム優勝

町内対抗綱引き大会が、十二月九日から十七日まで、午後七時から広域体育館で行われ、盛んな応援を受けて三十七チームが熱戦を展開しました。

優勝は浅見内チーム、準優勝は畑町チーム。浅見内チームは力とチームワークのよさに加えて、力を入れるタイミングの取り方がうまく、他のチームを圧倒。決勝戦でも畑町チームにストレート勝ちし優勝を決めました。

冬期間の交通確保のため 14業者に除雪作業を委託

町や県では、冬期間の交通を確保するため除雪態勢に入っています。

町が除雪する道路は三百十二路線で、その総延長距離は九五・六キロ。ブルドーザーやグレーダーなど十台の除雪車が、早朝三時から出勤できるようにになっています。

また、町の除雪車で回りきれない路線については、町内の建設業者などに除雪作業を委託しています。

委託業者と担当路線は次のとおりです。

▽伊藤組 加藤政光

52-4638

東磯ノ目北一丁目線、同北二丁目線、同東線、営林署通線、細越線、神明前線、羽黒前線、上田町線、下山内線、同支線、同中央線、同深堀線、同組田線、下山根線、山根線、同支

除雪に協力を 路上駐車は邪魔

町道の除雪は、国道、県道に通ずる路線やバス路線、通学路など主要な幹線道路から随時行い、できるだけ早く各地区の道路に除雪車が入れる

町道の除雪は、国道、県道に通ずる路線やバス路線、通学路など主要な幹線道路から随時行い、できるだけ早く各地区の道路に除雪車が入れる

線、中島線、同中央線、上山内荒町線、同大宮線、上広ヶ野線、和田線、大手線、富田

下川原線、富田線、同寺沢線、同上小路線、同雷線、同中小路線、同消防上線、同杉野線、八田下線、同上線、長面線、下山内小倉線、小倉樋ノ口線、黒土小倉支線、同小倉線、黒土線

▽赤坂建設 赤坂賢治

75-2749

大川上湯端線、同稗田尻線、同湖東線、同今戸線、同新住宅線、同新住宅支線、同西住宅小路線、同西

屋布線、同東屋布線、同下夕川原線、同寺小路線、大樋線、大川小学校通線、下樋口上線、大川関合線、曙一丁目線、同二丁目線、同三丁目線、石崎沼田線、同裏通線、樋口下樋口線、四ツ屋中谷地線、谷地

中四軒町線、西野海老沢線、原島線、谷地中樋ノ下線、同嵐町線、同三軒町線、西野上線、同四ツ屋川端線、同田中線、同八幡前線、同下村部落線、同下村線、同矢場崎線、

館町下線、同上線、中泉田住宅線、宮花線、矢崎岡本線、同南線、同東線、

▽金野組 金野 勇

53-2850

水沢線、同黒山線、同馬道線、松樹院前線、

▽建設 佐々木茂美

53-2525

杉沢中通線、同下段消防線、同上台中線、同上台通線、同旧軌道線、

▽高千建設 小玉誠一

54-2762

脇村旧県道線、脇村線、落合旧県道線、同川端線、同旧県道上線、同消防線、北村線、北口線、御蔵下上線、台線、

▽五光土木 本間文夫

52-4017

田中線、高崎上樋口線、同里下線、同里下東線、同下村住宅線、同下村支線、同下村旧県道線、同下村線、同小沼線、同下川原線、同槐線、雀館東線、中高崎線、

▽佐々木工業 佐々木喜久也

53-2225

小野台線、同中線、寺庭恵線、同中線、同柳沢線、同上村線、中村後村線、同巡査小路線、同田山線、同田山支線、同権兵エ支線、同権兵エ線、大吹

この綱引き大会は、町内対抗総合体育大会の競技種目として行われたもの。一チーム女性二人を含む八人で、選手の体重の合計が五六〇キロ以内という規定があり、試合前に計量して各チームの体重がチェックされました。

試合はトーナメント方式で進められ、一、二回戦と決勝戦は三セット行って勝敗が決まりました。その他の試合は一セットだけ。

▽優勝 浅見内▽準優勝 畑町▽三位 下山内▽四位 富田▽ベスト8 脇乙 樋口 中村 西野

全町卓球大会

小中学生が出場

11月23日・12月1日 五城目第一中体育館

【小学生の部】

▽男子団体①五城目小A②五城目小B③五城目小C
▽女子団体①五城目小A②五城目小B③富津内小
▽五年男子シングルス①猿田(五城目小)②一関(同)③伊藤(同)④柴田(同)
▽五年女子シングルス①猿田(五城目小)②小玉(同)③高橋(同)④館岡(同)
▽六年男子シングルス①原田(五城目小)②金野(同)③小林(同)④工藤(同)
▽六年女子シングルス①渡部(五城目小)②猿田(同)③佐藤(同)④伊藤(同)
▽男子団体①五城目一中A

▽二年男子シングルス①和藤(富津内中)②石井(五城目一中)③阿部(同)④工藤(同)
▽二年男子シングルス①和藤(五城目一中)②伊藤(富津内中)③伊藤(同)④畠山(五城目一中)
▽二年女子シングルス①斎藤(五城目一中)②小林(同)③藤田(同)④石川(同)

優勝した浅見内チーム



いそのめ風土記

19

五城目朝市の発祥とその変遷(三) 冬の五城目「市」

正月の食膳に国産のハタハタずしが乗るのは、今では珍しい光景になってしまった。市中に出まわっているものの大部分は、韓国産ハタハタの加工したものと評判である。

五城目の市とハタハタ、これは、かつては切っても切れない関係にあり、石井三友も、労作である『秋田繁盛記』にそのことをしているという。(『五城目町史』これは、江戸時代から男鹿方面との交易があった



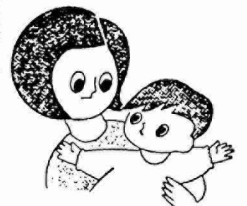
冬の朝市

八竜湖の水渉て来る。」が全てであるが、これによって、「もちあい」(正月八日から十五日)に塩を求めて五城目の市までやってくる男鹿の人々がいたことが分かり、そのルートは八郎潟の水を渡ってのものであったことが知られるのである。小正月に塩を買う風習は当地だけではなく、柳田国男の『遠野物語』の舞台となった岩手県遠野市の与作塩や長野県松本市の塩市などから、各地にあったことがうかがわれる。

ところで、この氷上ルートは、たびたび遭難さわぎをおこす難所であった。同月十八日の条には、一昨年の寒の日のこととして、次のような遭難記事をのせている。「市もどりの馬、炭俵つけてひとり行をくれ、雪吹にたちかくまれていづくともしらずゆくへまよい、中略：声をするべに喚かはしてみな寒さにたへず」けつきよく最後は五城目から買ってきた炭をおこして一夜をしのいだ、というのである。

こうした危険をおかしてまで人々をやってこさせる江戸時代の五城目の市の存在の大きさを示す話ではある。そして、五城目からみれば塩や炭の見返り品の一つに、ハタハタずしもあったと思うのだが。

(県立博物館 渡部紘一)



お誕生 おめでとう ごさいます(敬称略)

館岡友愛 長女	10月27日
敦浩・真弓	高崎
畠山瑠衣 三女	11月6日
伊藤栄祐 長男	11月18日
栄作・広子	町村
原田幸博 長男	11月25日
正行・清子	富田
一関明日美 二女	11月27日
広美・久美子	久保

おくやめ 申し上げます (敬称略)

三浦市太郎 84歳	上高崎
佐藤ハルエ 81歳	11月3日
松橋徳蔵 77歳	11月3日
大石ツヤ 86歳	11月7日
金野又吉 75歳	11月14日
富樫ナヲ 88歳	11月18日
松橋清之助 84歳	11月19日
佐藤カネノ 81歳	11月21日
	11月23日

町の人口と世帯

12月1日現在

人口	15,621人	(-4)
(男)	7,477人	(-1)
(女)	8,144人	(-3)
世帯	3,938世帯	(+1)

※()内は前月との比較

佐藤ユリ	56歳	11月24日
筒井長九郎	81歳	11月27日
中村		11月24日
昭辰町		11月27日

“はたち”になったら国民年金

てくください。

加入手続きは役場で

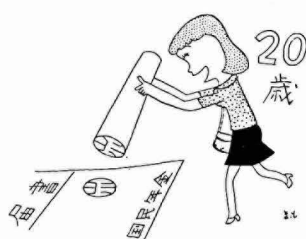
勤めて給与をもらっている方は、厚生年金、共済組合といった年金に自動的に加入しています。しかし、その他の方は、はたちになると国民年金に加入しなければなりません。

将来、あなたの老後の生活を支えることになる国民年金は、はたちのあなたにとっても他人事ではありません。成人としての自覚を持って、国民年金に加入し

てくください。

加入手続きは役場で

勤めて給与をもらっている方は、厚生年金、共済組合といった年金に自動的に加入しています。しかし、その他の方は、はたちになると国民年金に加入しなければなりません。



得者)

▽サラリーマンの妻(専業主婦で二十歳以上五十九歳までの方)

▽任意加入の人

▽昼間部の学生